

A61

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 04198242 A

(43) Date of publication of application: 17.07.92

(51) Int. Cl

C08L 23/04

C08F 8/00

C08F110/02

C08F299/00

(21) Application number: 02321039

(71) Applicant: KOMATSU LTD

(22) Date of filing: 27.11.90

(72) Inventor: SAKASHITA KATSUTOSHI
NAITO YOSHIHIRO

(54) ULTRAHIGH-MOLECULAR-WEIGHT
POLYETHYLENE COMPOSITION

(57) Abstract:

PURPOSE: To prepare the title compsn. excellent in mechanical properties, flowability, and moldability by compounding a specific PE and a specific macromonomer in a specified ratio.

CONSTITUTION: 100 pts.wt. ultrahigh-mol.-wt. PE having an average mol.wt. of 1000000 or higher is compounded with 20-100 pts.wt. macromonomer having a group reactive with γ -rays or electron beams attached to at least one molecular end (e.g. a butadiene macromonomer).

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

⑪ 公開特許公報 (A) 平4-198242

⑫ Int. Cl.⁵C 08 L 23/04
C 08 F 8/00
110/02
299/00

識別記号

LCC
MJA
MRM

府内整理番号

7107-4J
8016-4J
9053-4J
7142-4J

⑬ 公開 平成4年(1992)7月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 超高分子量ポリエチレンの組成物

⑮ 特 願 平2-321039

⑯ 出 願 平2(1990)11月27日

⑰ 発明者 坂下 勝敏 神奈川県平塚市万田1200 株式会社小松製作所研究所内

⑱ 発明者 内藤 良弘 神奈川県平塚市万田1200 株式会社小松製作所研究所内

⑲ 出願人 株式会社小松製作所 東京都港区赤坂2丁目3番6号

⑳ 代理人 弁理士 米原 正章 外2名

明細書

1. 発明の名称

超高分子量ポリエチレンの組成物

2. 特許請求の範囲

平均分子量100万以上の超高分子量ポリエチレン100重量部と、片末端あるいは両末端に「線または電子線反応性官能基を有するマクロモノマー20~100重量部よりなることを特徴とする超高分子量ポリエチレンの組成物。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、超高分子量ポリエチレンの組成物に関するものである。

〔従来の技術〕

超高分子量ポリエチレンは、その分子量が大である故に、溶融時の粘度が極めて高く、そのため、押出し成形については特定の条件下でのみ可能であり、また射出成形は不可能な状態であった。

従って、通常は圧縮成形した単純形状物を機

械加工して各種の部品を製作しており、生産性が悪く、高コストであった。

この問題を解決する方法、すなわち、超高分子量ポリエチレンの溶融粘度、流動性を改善し、押出し成形や射出成形を可能とする方法として各種の低分子化合物を添加する方法が提案されている（例えば、特開昭60-1245号、特開昭62-96547号明細書）。

〔発明が解決しようとする課題〕

従来の技術では、溶融粘度、流動性の改善に主眼がおかれており、確かに低分子化合物を添加することにより、溶融粘度、流動性が改善され、押出しや射出の成形性は向上するが、機械的性質等の物性の低下は避けられなかった。逆に物性を保持しようとすると、低分子化合物の添加量が少量に限定され、成形性はほとんど改善されなかった。

本発明は上記のことからみなされたもので、超高分子量ポリエチレンのもつ機械的性質等の物性を維持しつつ、流動性を付与して成形

容易にした超高分子量ポリエチレンの組成物を提供することを目的とするものである。

〔課題を解決するための手段及び作用〕

上記目的を達成するために、本発明に係る超高分子量ポリエチレンの組成物は、平均分子量100万以上の超高分子量ポリエチレン100重量部と、片末端あるいは両末端に「線または電子線反応性官能基を有するマクロモノマー20~100重量部より成る。

この組成物は、低分子量のマクロマーが混合されているため、この状態では、溶融粘度、流動性が改善されており、通常の押出し成形、射出成形が可能である。

次に、押出し成形、射出成形で得られた成形品に「線または電子線を照射することにより、マクロモノマー、またはマクロモノマーと超高分子量ポリエチレン間に反応を起こさせ、これにより物性の低下を防ぐことが可能となる。このようにして成形性の向上と物性の保持が同時にできる。

と電子線の使用は成形品の形状（肉厚）により使いわける。またこの照射によって起こる反応は、(1) マクロモノマーの単独重合、(2) マクロモノマーの超高分子量ポリエチレンへのグラフト化、(3) マクロモノマーによる超高分子量ポリエチレンの架橋の3つが考えられるが、いずれかの場合も照射前に比較して物性の向上が期待できる。

〔実施例〕

本発明の実施例を以下に説明する。

分子量100万以上の超高分子量ポリエチレン100重量部と、ブタジエン系マクロモノマー100重量部とをV型ミキサーで100℃で攪拌コンパウンドした組成物をサンプルとし、これを高化式フローテスター(200℃、剪断应力 5×10^3 dyn/cm²)を用いて粘度測定を行ない、さらにノズルから押出された糸状物（成形品）及びこれに放射線処理（「線10kev）を施したもののが引張り強度を測定した。

本発明で用いられる超高分子量ポリエチレンは、平均分子量が100万以上であれば、いずれの市販品も使用可能である。また添加するマクロモノマーは、熱反応性を有するものは成形中に反応するため好ましくなく、「線または電子線反応性官能基を有するものに限られる。

この条件を満たすものとしては、スチレン系マクロモノマー、ブタンジエン系マイクロモノマー、アクリル酸エステル系マクロモノマー等がある。そして、この組成物の組成は、マクロモノマーの種類により多少異なるが一般的には、超高分子量ポリエチレン100重量部に対して20~100重量部が望ましい。すなわち、添加するマクロモノマーが20重量部以下では超高分子量ポリエチレンの成形性向上に対する効果が小さく、逆に100重量部以上では超高分子量ポリエチレン本来の物性が損なわれる。

次に、このようにして得られた組成物を用いて成形し、得られた成形品に「線または電子線を照射してマクロモノマーを反応させる。「線

〔比較例-1〕

ブタジエン系マクロモノマーを10重量部ブレンドしたほかは実施例と同じ。

〔比較例-2〕

ブタジエン系マイクロモノマーを低分子量ポリエチレンに置きかえた以外は実施例と同じ。

上記各例の結果を下表に示す。

	添加物	溶融粘度(P)	引張強度(kg/cm ²)	
			無電解	電解
実施例	ブタジエン系 マクロモノマー	4.0×10^5	160	200
比較例1	↑	測定不可	—	—
比較例2	低分子量ポリエチレン	1.0×10^5	130	—
(参考)	なし	測定不可	220	—

なおこの表において、参考とは、超高分子量ポリエチレン単体である。

上記表に示される結果において、実施例のものは処理後において超高分子量ポリエチレン単体のものとほぼ同等の強度が得られた。また溶融粘度も実施例のものは改善されており、他の

ものはやわらかすぎたり、かたすぎたりして成形不能であった。

〔発明の効果〕

本発明によれば、超高分子量ポリエチレンのもつ機械的性質等の物性を維持しつつ、流動性を付与されて、成形性の向上を図ることができる。

出願人 株式会社小松製作所

代理人 弁理士 米原正章

弁理士 浜本忠

弁理士 佐藤嘉明